

パターン・ランゲージとは？

パターン・ランゲージとは、良い実践の秘訣を共有するための方法であり、成功している事例やその道の熟練者に共通して見られる「**パターン**」を抽出し、抽象化を経て**言語（ランゲージ）**化することで開発されます。

パターン・ランゲージは、もともと1970年代に建築家クリストファー・アレグザンダーが住民参加のまちづくりのために提唱した知識記述の方法です。アレグザンダーは、町や建物に繰り返し現れる関係性を「**パターン**」と呼び、それを「**ランゲージ**」（言語）として共有する方法を考案しました。彼が目指したのは、誰もがデザインのプロセスに参加できる方法でした。町や建物をつくるのは建築家ですが、実際に住み、アレンジしながら育てていくのは住民だからです。

現在では様々な分野で開発されており、大人が学び続ける方法のパターン・ランゲージや、認知症やデジタル活用に関するパターン・ランゲージが開発されています。

参考：

株式会社クリエイティブシフトHP: <https://creativeshift.co.jp/products/>

情報処理推進機構HP: <https://www.ipa.go.jp/ikc/reports/20220601.html>

デジタル庁HP: https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/95ff17aa-765a-4d0d-9770-e08a6a3c1e90/20220401_resources_leveraging_digital_technology_main_01.pdf

やっけんパターンとは？

やっけんパターンとは、**薬剤師が研究活動を行うためのコツ**について、病院・薬局薬剤師で研究活動の経験を重ねている熟達者の方々にインタビューを行い、**29個のパターンとして開発**したものです。

開発の背景

薬剤師には、臨床上の問題や業務における問題点を抽出し、解決する能力が求められています。そして、それらの能力を発揮し、症例報告、観察研究などの科学的評価（研究活動）を行うことでエビデンスの創生に貢献し、患者ケアや薬物治療の最適化を目指す役割が期待されています。その成果を学会発表や論文として公表することも重要です。しかし、病院・薬局薬剤師の調査では実際に臨床現場において研究経験がある薬剤師は一部に留まっていました^{1,2)}。

私たちは就職後の学会発表経験の有無についての背景や要因の違いを明らかにするために全国の病院・薬局薬剤師を対象に調査を行いました。

その結果、病院薬剤師において「**学会発表の相談ができる薬剤師の存在がある**」、「**実務実習生の指導経験**」などの項目、薬局薬剤師では「**博士・修士課程での学位取得経験**」の項目に学会発表経験と有意な関連が見られました。また、層別解析の結果では中小規模病院に所属する薬剤師において「**ロールモデルとの出会いがある**」、「**相談できる薬剤師の存在がある**」などの項目に有意な関連が見られました³⁾。

これらの結果から所属施設や大学院において指導者から**研究における実践知についての教育を受ける機会が臨床現場で研究を実践する上で重要**であると考えました。そして、現状では**実践知を継承・共有する環境が臨床現場において十分に整備されていない可能性がある**ことが考えられました。

実践知とは、その領域・分野における熟達者が持つ、よい結果を生み出すためのコツであり、経験の積み重ねによって形成されます。実践知は暗黙的であり、本人は無意識に実践している場合が多く、他者への説明・共有が難しいとされています。実践知を共有する方法としてパターン・ランゲージがあります⁴⁾。

様々な分野でパターン・ランゲージは開発されておりますが、薬学の分野では開発された実績はなく、臨床現場における研究活動に必要な実践知は一般的に共有されていないと考えました。

そこで、私たちはこのような状況への改善策としてパターン・ランゲージの開発手順に則り、研究活動を継続している病院・薬局薬剤師の方々にインタビューをして、臨床現場で研究するための実践知・コツを聞き出しました。

そして、「**薬剤師の臨床現場における研究活動についてのパターン・ランゲージ（略称：やくけんパターン）**」としてまとめました。

やくけんパターンは薬学部卒業後に**研究経験がない方に向けた内容が中心**となりました。したがって、該当する方はパターンを読んでいただき、少しずつ実践することで研究活動を行うきっかけにしていただけると幸いです。

また、自身は「**研究をやりたい！**」「**すでに経験がある！**」けれど、同僚や後輩と一緒に研究に取り組む雰囲気・文化が職場内になくて悩んでいる方もいらっしゃると思います。

そのような場合、やくけんパターンを「**話しのきっかけのツール**」として利用し、周りの方に共有していただけたらと思います。その行動により、職場内での研究への理解が深まり、研究活動が活発になることを願っております。

本資料を活用していただいた薬剤師の方々が研究活動を行い、研究成果を発表することは最終的に新たなエビデンスの創生および医療の質の向上につながると考えます。

ぜひ、この「**やくけんパターン**」をご覧ください、**研究活動を始める・継続するきっかけ**にしていただけたら幸いです。

【参考文献】

- 1) 高武 嘉道, 川俣 洋生, 大石 裕樹, 他. 病院薬剤師の臨床研究に関する経験と意識調査. 医療薬学. 2020; 46: 655-663. doi: 10.5649/jjphcs.46.655.
- 2) 松本 准, 板野 円香, 岩田 直大, 他. 保険薬局薬剤師におけるエビデンス創出に対する意識：岡山県薬剤師会会員に対する大規模実態調査. YAKUGAKU ZASSHI. 2023; 143: 393-404. doi: 10.1248/yakushi.2200151.
- 3) Watanabe K, Sakai T, Ohtsu F. Analysis of factors affecting pharmacists' ability to identify and solve problems. J Pharm Health Care Sci. 2023; 31(9). doi: 10.1186/s40780-023-00300-2.
- 4) パターン・ランゲージとは？ [Internet] . クリエイティブシフトHP; (参照 2023年6月21日) <https://creativeshift.co.jp/pattern-lang/>